

近年、企業の社会的責任（CSR）が進化した「共通価値の創造（CSV）」という理念が広がりつつある。日本ではCSRは経営戦略とは別の社会貢献活動として捉えられることが多かった。だがCSVは市場競争に不可欠な経営戦略の一つとして社会的課題に取り組むべきだという考え方である。顧客や社会の課題を、自社の本業によって解決できれば長期的な取り組みにつながっていく。

「共通価値の創造（CSV）」は2011年、米ハーバード大学のマイケル・ポーター教授が提案した概念である。本業を通じて社会的な価値と企業の価値の双方を両立させる経営が企業を成長させるというものだ。日本には2000年頃から欧米のCSRの概念が流入してきたが、それまで独自の概念を形成していた。そのため欧米とは異なり、日本では法令順守、社会貢献、環境対応が主なCSRとされてい

三井物産
6事業分野で
「良い仕事」

総合商社の三井物産は、金属・機械・インフラ、化学品、エネルギー、生活産業、次世代・機能推進の六つの事業分野で事業を展開している。社会の課題解決に努め、持続可能な社会の実現に貢献することを同社のCSRと位置付け、本業を通じて「良い仕事」を実践し社会に価値を提供し続けることに取り組んでいる。

共通価値の創造 広がる

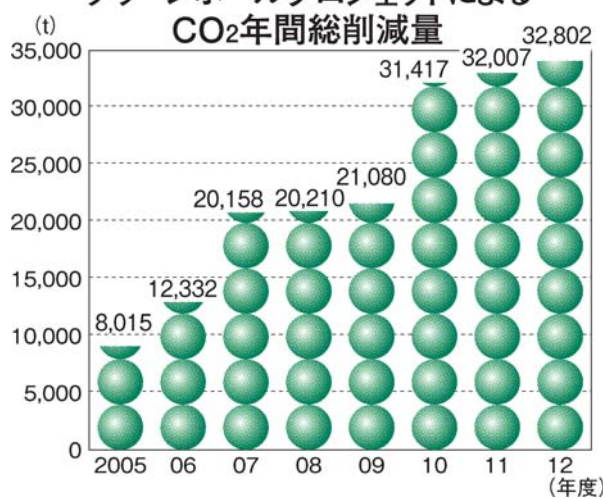
大きな地球環境問題の一つである水質汚染に、インフラ事業で培ってきた開発力や調達力、ネットワークを生かし取り組みたい。メキシコでは現地企業と共同で、石油関連プラントから出た廃水を浄化し、100%プラントに戻す取り組みを行っている。黒く濁った原油臭のする廃水も魚が息できるレベルまで浄化できる技術で、必要なレベルに応じてリサイクルしているという。特に水質汚染が深刻な問題となっている中国各地でも上水供給・下水処理などの事業を展開している。

また交通インフラ分野において、三井物産子会社のカーシェアリング・ジャパン（東京都渋谷区、村山貴宣社長、03・5456・6400）は、環境に配慮した街づくりを担う次世代の交通インフラサービスの一翼としてカーシェアリング事業を展開している。車両の

市場競争に不可欠な戦略

効率的な活用を図ることで、二酸化炭素（CO₂）削減による温暖化防止に貢献している。また、所有するカーシェアリングサービス車両の走行距離に応じた植樹活動も行っている。サービス車両全体の年間走行距離を合計

グリーンボールプロジェクトによるCO₂年間総削減量



カーシェアリング・ジャパンによる三井物産の森での植樹活動(三井物産提供)

山 善
環境優良商品の販売を強化する取り組みとして、販売店にCO₂排出枠を供与する「グリーンボールプロジェクト（G B P）」を行っている。山善が調達し保有している排出枠（Y V E R）を、G B P対象商品である環境優良商品を販売した販売店に、販売量から算出したCO₂削減効果に相当する排出枠（Jクレジット）を与える。販売店が企業活動で削減困難なCO₂排出量をオフセットするため、環境優良商品を販売するインセンティブとなる。参加企業（販売店）は住宅メーカーから機械工具商社まで多岐にわたる。

環境優良商品の販売を強化する取り組みとして、販売店にCO₂排出枠を供与する「グリーンボールプロジェクト（G B P）」を行っている。山善が調達し保有している排出枠（Y V E R）を、G B P対象商品である環境優良商品を販売した販売店に、販売量から算出したCO₂削減効果に相当する排出枠（Jクレジット）を与える。販売店が企業活動で削減困難なCO₂排出量をオフセットするため、環境優良商品を販売するインセンティブとなる。参加企業（販売店）は住宅メーカーから機械工具商社まで多岐にわたる。

積極的な活動 期待

社会的価値と企業の価値を両立させるCSVの経営で地球環境を守る取り組みが行われれば、社会環境の変化にかかわらず、長期的で積極的な活動が期待できる。「事業所は生態系サービスを受けている」（香坂玲金沢大学准教授、4面参照）ということを忘れずに、社会的責任を果たして行くことが企業の成長にもつながっていく。



「宝酒造 田んぼの学校」での田植え体験（宝酒造提供）
.....
進んでいる。リフューズは余分なものを買わずに必要なモノだけを買ってゴミを減らす活動を目指す。同社では焼酎の量り売りや独自に展開している。販売店には専用タンクで焼酎を工場から直送し顧客は容器を持参して必要な分だけ購入する。12年度には新規で12店舗を開拓した。全国約180店舗で実施しており、1998年の開始以来13年3月までに2・7割のペットボトルに換算して約708万本、段ボール約177枚を節約したことになる。その他、ペットボトルの軽量化やパウチパックの採用など、ゴミの減量に積極的な取り組みをしている。自然環境の保護に取り組む中で、次世代を担う子どもたちの「田んぼの学校」を開校している。小学生とその家族を対象に稲作体験とクッキングスクールを開催。自然環境や生物多様性を守ることの大切さと自然の恵みのありがたさを伝えている。豊かな環境と共生していくことが同社の存続の大前提となる。次世代を担う子どもたちの環境教育は重要な役割があると言える。

三井物産
www.mitsui.com/jp



高度成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。

三井物産の森

全国70か所以上、約44,000ha。
100年以上、大切に守り育て続けています。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化したこの50年。
いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、
生活に取り入れて、自然を思いやる“木づかい”の毎日へ。
何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。
そして、何十年後かのために、あたらしく植える。
それは、森林を代謝させ、健康に保ち、
みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。

三井物産は、次世代のことも考えながら、
「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、
持続可能な森づくりに取り組んでいます。

木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。